



岐山蘇林

目次

▲學術
下高井の杉林に就て

▲調査
養樹に於ける相
思樹に就て
本校苗圃に於ける
試験成績報告

▲通信
山林學校便り
寄宿舎便り
校友消息
稽程一千日

▲文苑
高原の夕暮
趣味の道

▲雜報
雜報

長野縣西筑摩郡
島町四〇四番地
編纂兼發行人
安井正夫

長野市南縣町己三
番地
印刷者
田中彌助

長野市西后町乙二
十一番地
印刷所
長野新聞社活版部

長野縣西筑摩郡
島町二八九番地
發行所
蘆澤書店

（日十月七年一四治明）（日五月期每） 號八拾五第 日五十二月八年三正大



下高井郡の杉林に就て（二）

北村正夫

上高井郡仁禮村附近並に下高井郡平
穩村附近に民有林の杉林があること
は夙に聞いてゐたが信州の名物とも
云はれる有名な落葉松の林でさへ國
有林や御料林は兎も角民有林に於て
は二三の外余り感心して見惚れる程
のものはないので余り有名でもない
杉林なれば失禮ながら其林況も推し
て知るべしと考へ敢て心にも留めざ
りしが去る頃機りを得て下高井郡の
杉林を視察せし所……之れは意外！
其林況の立派なること殊に又甚だ面
白き歴史を有すること等全く豫想に
反し他縣に於ても多く其類例を見ざ
る程の美林なりしは甚だ赤面の至り
であるが又實に愉快に感じた依て視
察せし所の大要を誌して未だ見ぬ諸
氏に御紹介申さう

杉林の在る所は……温泉を以て有名
な平穩村とこれに隣接せる穂波及日野の兩
村である。遙かにこれを見渡せば圓錐形を
なせる立派な樹冠が三ヶ村の山から山へ聯

て廣い人工の杉林を形て居る有様は實に形
容の出来ぬ立派なもので本縣内は勿論他縣
に於ても一寸珍らしい美林である現に人工
造林を施し完全なる村相を呈するものは穂
波村に約二百町歩合計八百村歩程もある相
である。此の……

杉林の狀態……を云へば先づ土地は
西北乃至西南に面し傾斜は余り急でなく土
壤は角礫を混する砂質壤土で杉の造林をな
すには適當な所である

生育の摸様は何所も一般に良好である其内
でも成長の最も宜しきは日野村字間山及平
穩村字地獄谷で材質の最も良好なるは穂波
村字寒澤である、又最も廣大なる林相を呈
するは前記の間山及寒澤で此兩地の間にあ
る時から見渡せば數百町歩の美林が一帯の
裏に收まり彼の吉野の杉林も新しくと思は
る程である

斯様に此三ヶ村だけが比類少き杉の美林を
經營するに就ては必ず何か特種の原因がな
くてはならぬ又斯様に一地方に限られて特
種の産業が發達せる所には其裏面に於て獻
身的に努力せられた偉人のあることを發見
するものであるところが今日此の……

杉林の沿革……を調査せる所果せる
哉豫期せし通り左記數名の偉人が獻身的に
努力せられた結果斯くも立派な美林を成立
せしむるに至つたものであることを發見し
て益々愉快に耐へなかつた、而して其第一

の功勞者として推擧すべきものは有名なる佐久開象山先生である、即ち此地方の杉林が今日の如くなつた其根源を築いたのは實に先生の偉大なる人格と熱誠なる努力に因りたるものと云ふも過言ではあるまい。

或時先生が沓野村へ出役せられた際一日閑を得て遊山を催された夫れで名主數名を招き酒肴を運ぶ人夫を出すことを命じ且つ明日は遊山のことであるから人夫にも酒を興へ充分に興を添へる様になすべき故人夫は成るべく酒好きの者を五人位出すべしと申し添へた、そこで名主共は大に喜んで何れも酒呑童子の再生した様な酒好きを選んで夫れに酒肴を負はし總ての準備を爲し置く様に朝早くに出發せしめ名主共は御供をする爲め先生の宿舎へ集めた、いつも早起きの先生が其朝は容易に起きない漸く八時頃に起き上り欠伸の五つもした上洗面に十分更衣に三十分朝食に一時間といふ様に頗る悠々と構へ込んで容易に出發する摸様がな御供の連中も餘り待ち遠いので御出發を申上げ十時過ぎに漸く出發することになつた、然るに平素は山坂でも平地の様に歩まる、健足家の先生が其日は頭足弱で少し歩めば休息する休息すれば難談などとして容易に立たない其上歩みながらも草や木を採つて其効用を話す杯其歩方牛よりも遅く一里余りの所を三四時間も掛つてやつと目的地に到着した

の順備も出来一同の來着を今や遅しと待ち受けてゐたが十時となり十一時十二時になつても來る摸様がな余り待ち遠いので酒樽に寄りかゝつて居眠りを始めると、次第に腹は空て來る酒の香氣は遠慮なく鼻を衝いて來るゝ一種いふべからざる快感を刺戟せらるゝ、元來が酒呑童子の再生と云ふ程の酒好き何條香ひだけを嗅ひて心棒の出來様等なく其中に一口失敬を試みると所謂五臟六腑に滲み渡つて形容の出來ぬ氣持である、こうなると最早佐久開象山先生も藩の役人も忘れて一切夢中遂に一樽を平けて頗る上機嫌となつた

調査

臺灣北部に於ける想思樹の生長量及收穫量に就て (承前)

第八章 萌芽林に就て 大脇 文 術

きは不届至極のことである此度も人夫どもか上役人に對し無禮の所行ありしこと許し難き所なるも此後お上のた達しを守り山野に植林をなし且つ右人夫二名に對し五千本宛都合二万五千本を直ちに植付けするに於ては特に寛大の詮議を以て差し許すべきに付き有り難く御請け致すべしと申し渡した名主共は人間一人の命が杉苗五千本に代へられたので大いに喜んで御請けをし命令通り二万五千本の杉を造林したと云ふことである。

又日野村の山林は永録年間甲越軍の兵燹に罹り其の大部分を燒失し其の上盛んに濫伐したため山野非常に荒廢し山地の崩潰水源の枯渴等を來した爲め今より約百五十年程昔に同村の名主小林與左衛門なるものが人民に謀り杉若干を植え付けた相だが一二年丈で實行せられず其の後山林の荒廢は愈々甚だしく諸害頻りに發生し一方隣村の沓野等では杉を造林して其の成績の良好で有るので村民も漸く造林の必要を感ずる様になつたので同村の名主小林九之丞、牧野嘉右衛門の兩村民に謀り佐久開先生の營林法に倣ひ熱心に指導督勵をした結果前記の二ヶ村にも劣らぬ美林を造成する様になつた相である。

本嶋の林木には萌芽力を有するもの多く殊に想思樹にありては頗る旺盛なる故に従來本島人の盛に實行する所にして其方法も亦甚だ巧なり即早春根元の土を掘りて深く根部より切斷し少しく土を被ひ置くと時は數本の芽を出し多數に過ぎたる時は強大なる分を殘して切り棄つる時は優勢なる生長をなして數年にして利用し得るに至る故に搬出便利なる地方に應用し得る集約的な方法にして普通五六年を伐期とし早き所にては四年過ぎも八九年なるが如し(老年迄放置せらるゝものなきにあらず)

斯くの如く個人の林業として割合に簡便にして收利の速なるものなるが故に廣く行はれたりと雖も全然經驗上の應用に止まり進んで研究をなすてふ觀念なきが故に果して何回目かの萌芽なるや尙何回目に新植を要すべきか即萌芽更新に耐へ得べき年數等は極めて不明に屬す一般に萌芽更新は大に地方に關係するものにして其新植期も土地によりて一定し難く又良好なる土地に非ざれば

第十二表 想思樹萌芽林生長量表

林齡	胸高直徑	高サ尺	中央木幹材積	一町步當り			幹材積生長		幹材形數	
				本數	斷面積計	幹材積	植條材積	連年		平均
3	0,65	10	0,0024	9,000	31,00	21,50	13,0	7,2	7,2	0,827
4	1,00	14	0,0061	6,600	52,00	40,00	29,0	18,5	10,0	0,597
5	1,40	18	0,0133	5,200	80,00	69,00	41,0	29,0	13,8	0,575
6	1,80	21	0,0285	4,200	108,00	120,00	55,0	51,0	20,0	0,635
7	2,15	24	0,0446	3,500	127,00	156,00	73,0	36,0	22,3	0,627
8	2,45	26	0,0607	3,000	142,00	182,00	90,0	26,0	22,7	0,591
9	2,80	28	0,0769	2,680	153,00	202,00	101,0	20,0	22,4	0,566
10	2,95	30	0,0883	2,400	160,00	212,00	110,0	10,0	21,2	0,539

は萌芽更新を行ふも良好なる成績を認め難し。蓋し萌芽更新によりたるものと播種若しは植樹によるものとは其生長状態稍異なるものがあるが故に今回の調査に於ても植樹によりたるものを主としたるも亦萌芽林の生長をも知らんと努めたり而かも材料不充分にして其奥義を断定し難きは遺憾とする處なれども調査の査に基き聊か萌芽林の生長及收穫を論せん。

第一節 萌芽林の調査
萌芽林の調査も前法と同じく各所に於て適當なる標準地を選定し毎木調査を行ひ「ウリツヒ」民法により標準木を伐採し其材積を測定せり其結果第十二表の如し

第十二表想思樹萌芽高測量表 (表を記入すべし)

備考
1 標準地の面積は一町步とす
2 他は前例による

第二節 萌芽林の成長及收穫
實測表によれば其本數若しは各種の生長不規則にして標準を欠くが故に之を基礎として曲線を描き稍標準となし得べき生長量を求めんとす然れども材料小さきを以て爰に總括して一階級となし其地位の區別をなさす (曲線圖省略)

第三節 人工植栽林(又は播種)と萌芽林との生長比較
上述によりて萌芽林の生長と人工植栽林の生長とを對照する時は其経路に稍異なる點を見るべし故に之を比較すれば

作業種	年	人口植栽林(又は播種)		
		1	2	3
萌芽林	三三	一〇、〇	一三、五	一、〇
	三三	一〇、〇	一三、五	一、〇
	三三	一〇、〇	一三、五	一、〇

作業種	年	萌芽林		
		1	2	3
九	年	二、八〇	四、〇〇	三、三〇
七	年	二、二五	三、一五	二、五五
五	年	一、四〇	二、一〇	一、六五
三	年	〇、六五	〇、九五	〇、七五

(b) 直經生長
即人工植栽林の二等及三等地の中間に相當するを見る但九年生に至りて下る

作業種	年	萌芽林		
		1	2	3
九	年	二、六五〇	一、九〇〇	二、三三〇
七	年	三、五〇〇	二、四〇〇	二、九〇〇
五	年	五、二〇〇	三、二〇〇	三、九〇〇
三	年	九、〇〇〇	五、〇〇〇	五、五〇〇

(c) 一町步當り本數
萌芽林の本數は一般に大なり然れども年數の増加に伴ひて減ず九年に至りて三等に匹敵するを見る

(d) 一町步當り幹材積

年	作業種		
	萌芽林	人工植栽林	林
三	二、一五	二、一五	二、一五
五	六、九〇	二、五〇	二、五〇
七	一、五〇	二、五〇	二、五〇
九	二、一〇	二、五〇	二、五〇

之による時は萌芽林の材積は人工植栽林の二等及三等地の中間にあり

即ち之等を綜合する時は一般に現今の萌芽林の生長は人工植栽若しは播種造林地の二等若しは三等の中間にありと云ふを得べし然れども林木の生長は地力に關すること大にして萌芽林に於て殊に然るものにして未だ之が試験をなさざるを以て其程度明かならずと雖も通常萌芽林の行はるゝ所は部落に近きか若しは運搬に便なる土地に多きが故に從來の使用により其土地力は新植せらるゝ山間の地に比して瘠悪なるは言を俟たず如斯比較的地力を要する萌芽林に於て却て瘠悪なる土地を使用する結果普通優劣なるべき高さの生長は尙不良なる現象を示すに至りたるが如し

第九章 想思樹と二三樹種との生長比較

如上述べし處により略想思樹に關する我臺

樹種	地位	樹齡	平均			本數	備考
			直徑	樹高	幹材積		
信州 獨乙 赤松	1	同	二、九	三、三	〇、一七	寺崎林學士研究 林業試驗場報告第四號 Tawarhis and formdew Schwaljerla(1902年出版)	
信州 獨乙 赤松	2	同	二、九	三、三	〇、一七	Form anub inheet gew Larhe(1905出版)	
信州 獨乙 赤松	3	同	二、九	三、三	〇、一七	前出 (1905)	

灣島北部の生長及收穫を知り得たり尙茲に參考として之に類似せる樹種との成長比較を試みんとす然れども本島に於ては全然未だ之等の研究をなしたることなく内地及外國に之を求むるも松其他二三の有樹種に就てのみ發表せられあるに過ぎずして潤葉樹種に新材たるべき樹種に就きては殆んど據るべきものなし殊に氣候其他の關係が生

長に對する差違は内地及外國のものと比較するの不可なるは論を俟たず加之樹種の異なる点よりするも其根柢とすべきものなきは蓋し識者の誹を免かるべからざるを知るも只自己の調査したる其儘を吐露して之が教示を受けんとす 茲に左表を掲げて參考對照せん

多くの生長量の測定は十年乃至十五年にして幼年に於て調べたるものなきは對照上遺憾なり故に十五年生の樹種に於て對照す。ときは只單に想思樹は他より優勢なりとのみ云ふより外に比較論評を下すべき余地な

し尙田中學士(帝國林野管理局技師)の調査に成る朽木縣下都賀郡の櫟林收穫表(森林家心携より拔萃)と對照すれば即幹木にありては一町步の收穫量(三等地) 初面一萬八千

二回以後三萬... 其他の關係は前者に近似するものにて... 平均五万... 即櫟林の平均收穫の二倍弱なるを見る... 要之想思樹が他樹に比して幼時の生長優良なるは氣候其他の關係が之を助成するの結果なるべしと思料す。(未完)

本校苗圃に於ける試験成績報告

第三學年 第三組調査 本校第一號苗圃第四區林業試驗苗圃は三學年第三組主任となり一學年第三組これを扶け北村、宮田兩先生監督の下に面積貳畝〇八歩(通路共)を苗木試驗場に、面積貳拾八歩(同上)を播種試驗に充て苗木試驗は四月二十日より五日間之れが植付けをなし播種試驗は四月二十二日播種全部を終り斯くて各種の試験(正植、葱植、卷根、根部剪定、幹部剪定、乾燥、浸水等の苗木試驗及び被土、施肥、沈壓、浸湯、藥液浸漬、外國樹種等の播種試驗)は銳意組員の手によりて行はれ爾來除草すること三四、此の間常に組員はこれが保護監督に力を致したるの結果其成績亦見るに足るべきものあらん、六月十一日調査に係る該試験の成績報告左の如し

苗木試験の部

一、正植試験 植込期日、大正三年四月二十日... 植込本數、檜杉赤松共三年生各三十本... 同 上 二年生各四十八本... 除 草 六月一日午後第一回除草... (注意)次記の各試験共植込期日植込本數除 草等は本試験に同じ 成績、本試験は正植なるが故に發育最も佳良にして枝葉の繁茂枝幹の健剛葉緑の濃厚なる他に比するものなく就中發育の最も良好なるものは赤松檜各三年生にして杉二年に於て枯苗一、赤松二年生に於て病害の爲め中部より挫折せるもの一あるを認め他は頗る發育良好なり

二、葱植試験

成績 本試験は元來稚苗を横伏せしめて植込みあるが故に其發育不自然且新芽は全部 くの字形をなし就中松の三年生にありては其の向日脊地性の顯著なる圃中の奇觀たり 檜三年生最も發育佳良にして同二年生之に次ぎ杉三年生の苗頭の枯死せるもの四 同二年生六 松三年生枯苗三 同二年生の枯苗三あり

三、卷根試験

成績 本試験は植込み當初より其の命根及鬚根共に拳狀に纏結せらるるが故に根の發育極めて不良にして強風に遇へば枝幹の動搖烈しく一旦發生せし新髮根はこ

の三 同二年生枯苗十六 不良苗四 松三年生の枯苗三 不良苗三 同二年生枯苗六 不良苗三あり

六、幹部剪定(上部) 成績 本試験は苗木の上部枝葉を剪定したるが爲めに却て下部の枝葉發育旺盛なり 苗木の上梢細長にして軟弱となり往々にして下枝の苗頭を凌ぐものありされど稍頭の生長は唯遅緩なるのみにして生長を休止するものに非らず 檜三年生良好にして杉三年生の苗稍の枯死せるもの三、同二年生枯苗三、苗頭の枯死四、赤松三年生最良の發育をなし同二年生枯死一、のみにして概して發育良好なり

七、幹部剪定(下部) 成績 本試験は苗木下部着生の枝葉を剪定せるが爲めに上部枝葉は殊に繁茂して幹部の未だ虚弱なるに反し梢頭重く且つ風に觸ると面廣大なるが故に風倒の慮多けれ共苗頭芽の發育極めて良好なり 杉三年生の枯苗一、先き枯れ三、同二年生枯苗八 枯に瀕せるもの十一 赤松三年生不良苗一、同二年生枯死三、不良苗二あり

八、乾燥試験成績 植付期日 大正三年四月廿日より五日

苗木の年齢各樹種共滿二年生 苗付本數前にと

四、根部剪定(三分一)

成績 本試験は其後の發育最も良好にして二分ノ一根部剪定は稍々過剪の觀あれども檜の如き鬚根の多く着生するものもありては二分ノ一根部剪定は毫も害なきもの如く松の如き命根長く鬚根少きものには稍々剪に過ぐるもの如し 檜二、三年生最も發育良好にして杉三年生苗頭枯死せるもの四 同二年生枯苗一、枯に瀕せるもの三、松三年生の不良苗一、同二年生枯苗一にして他は極めて發育經過良好なり

五、根部剪定(三分二)

成績 本試験は過剪よ、來る害多しと雖も檜の如き鬚根の多きものは左程拘むる所少なく其發育狀態は二分ノ一剪定と殆んど異なるなし 杉松等の細根少なきものもありては過剪の害甚しく殊に植込當時苗木の稍々貨弱なるものに至りては殊に然りとす 檜二三年最佳にして杉三年生の枯苗一、不良苗二、苗頭の枯死せるもの二あり

九、浸水試験成績

1 無水浸水 本試験は苗木の假植したるものを其儘植込したるもののみにして 檜枯苗一、全上半枯二、松は全部生着して發育良好杉三年生苗頭の枯死せるもの二あり

2 普通浸水

本試験は假植苗を一度浸水したる所謂普通移植の際行はるる方法にして檜は全部生着發育極めて良好松の枯苗三、全上不良枯二、杉三年生半枯苗一他は概して發育良好なり

3 二十四時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

4 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

5 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

6 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

7 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

8 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

9 七十二時間浸水

本試験は流水中に苗木を浸して苗根の土は水に洗ひ流され根に土の附着する少なし 檜最も佳良にして松之に次ぎ杉は枯苗九 苗頭の枯死せるもの五あり 四十八時間浸水 前と同トく流水中に浸したるものにして根は全く洗滌せられて鬚根の間隙に土の殘存せるものなし 檜の枯苗一松は最も佳良にして杉枯苗は全上半枯苗四なり

苗木の流水中に浸す事前に同じ種の枯苗
一、全上不良苗二、最も發育良好にし
て杉は枯死苗四、全上半枯苗三、ありき
五、晝夜浸水

前の如く苗木を流水中に浸したるが爲め
根の土は盡く洗ひ流され根を攪拌するも
水の濁水となる事なし松の枯苗一、梅の成
育最も佳良にして杉の枯苗二、全苗頭の
枯死せるもの三、あり

以上の各試験を通じて梅の成績良好なるは
之全く苗木の優良なりしと其根にして鬚根
の多きとに基因するもの、如く杉の成績概
して不良にて苗頭の枯死多かりしは植込み
の際杉苗木の不充分にして且つ其當初より
苗頭の枯死せるもの多かりしに基因するも
の、如し(播種試験成績報告は次號に)

通信

山林學校便り

○學則改正 本校學則一部の改正に就ては
豫て職員會議に於て熟議の上基筋へ申請申
なりしが七月廿四日附を以て認可せられた
り改正の箇所左の如し
一、第六條中四十三週とあるを四十週とす
ること
一、第七條第三項中毎年五月十五日とある
を毎年の二字を省くこと

一、全條第四項を改めて夏季實習後休業廿
日間とすること
一、第十四條但書中地理、日本歴史を省く
こと
一、第十五條を改めて入學志願者は入學願
書に履歷書身体検査書及戸籍謄本を添へ
差出すべし
但し書式左の如しとすること
○夏季實習終了、去る七月十日より施行せ
し夏季實習は天候我に幸ひし一日の降雨も
無かりしを以て豫定の事業を遂行し殆ど豫
期以上の好成绩を以て廿四日終了を告げた
るを以て廿五日午前八時より校内の大掃除
を行ひ十二時より講堂に於て終業式を挙げ
安藤校長より今季實習に於ける講評ありし
が今年は昨年比して地勢急峻ならず雜草
木も稀少にて作業比較的容易なるものあり
しとは云へ傷病者を生ずること至て少く工
程著しく進みたるは全く共同一致の精神の
旺盛なりしと 努力勤勉の度の強かりしに
歸因すべく此精神は益々發揮助長すべしと
て大に賞讃を與へられぬ今左に實習實施の
大略を記さん實習期間及日數
三學年 七月十日より廿五日迄 十三日
間
一、二學年 七月十三日より廿四日迄
十一日間
右内譯並に工程
三學年

外業 七日間 周圍測量、主なる峰及
測量、溪筋、林分界學校附近
内業 六日間 野帖整理、原圖、計算
二學年及一學年
演習林下刈 二學年 六日三分約八町
一學年 五日四分歩餘
全 蔓 切 二學年 一日約一町
一學年 一日歩餘
苗圃除草及 二學年 三日二分約六反
施肥 一學年 三日一分歩
農除草及 二學年 一日
施肥 一學年 一日
植物園及庭 二學年 半日
園除草 一學年 半日
生徒出缺の摸樣
三學年 (四十五人、十三日間)
延人員五百八十五人
内(出) 五百六十八人
内(缺) 七十九人
二學年 (五十九人、十一日間)
延人員六百四十九人
内(出) 五百九十二人
内(缺) 五十七人
一學年 (四十五人、十一日間)
延人員四百九十五人
内(出) 四百七十九人
内(缺) 十六人
負傷者、
鎌にて手に負傷せし者三名
蜂に刺されし者數名
夫より校長は學則一部の改正に就て報告し
愈々廿七日より八月十五日迄廿日間の休業

に入るを以て其間十分に心身を修養し捲土
重來の勢を以て歸校すべきを希望され尙登
山旅行は都合により八月に延期せしにより
歸校早々舉行すべしと是にて式を閉ぢた
り

水路調査

○昆蟲研究者來る、七月廿日東京農科大
學助手三橋信治山田保治氏兩名木曾地方
昆蟲研究の爲來福寄宿舍に入り専ら採集に
従事せられ居りしが全月廿五日に至り更に
農科大學教授三宅博士の來福あり越えて
卅日 佐々木理學博士も入峽、兩博士共寄
宿舍に宿泊せられ毎日附近を跋渉して昆蟲
の採集に従事せられたるが八月一日博士等
一行は駒ヶ岳登山を試みられ之が爲め學校
よりは安藤校長を始めとして宮川、大場の
兩教諭案内として同行せられたりかくて博
士等一行は四日歸京の途に着けるが一行が
滞在中に於ける昆蟲採集高は三百種以上に
達し新発見は四五種ある由なれども兎に角
歸郷研究の上ならでは命名すること能はず
といふ一行が駒ヶ岳にて採集せるクモ、マ
ニヒカゲといふ蝶は廿五蛾なるが該蝶は八
ヶ岳、白馬山、駒ヶ岳の三山に居るのみに
て他山には發生せざる由なり因に安藤校長
は兩博士に研究の結果、標本を送られ度様
懇請したり尙大場教諭は主として兩博士に
就きて研究せられたるが其他諏訪高等女學
校教諭千野光義、大桑小學校長、松原慶次
兩氏も研究の爲態々來校せられたり

○水路調査、本校及寄宿舎の水の問題に就
ては以前より常に苦慮せる所なるが七月に
入りて連日の炎天にさらぬだに少量の飲料
水は殆ど濁水となりたれば己むを得ず雑用
水を汲みあげて飲用に供しつゝありしも該
雑用水は一部落民の用水尻に當り不潔にし
危険なるを以て此際縣當局に陳情して新
に豊富なる水を引き來り根本的に水の問題
を解決するの必要に迫られ七月末陳情書を
提出せるが七月廿八日川邊技手來校視察更
に八月八日に至り中村縣屬は縣の命令によ
り來校し安藤校長を始め七宮、宮川兩教諭
加藤、征矢野兩書記と會談協議し舊水路並
新水源踏査をなせるが十三日に至り更に
縣より田中技手出張十七日に至るまで滞在
種々調査をなせるが結局岩ノ澤の水量豊富
なるを以て之を引く事に決し夫々實測をす
へて歸縣せられたるが何れ豫算編成の上縣
會に提出することとなるべし一方學校に於
ては一時的應急策として雑用水の上即ち部
落の上より竹樋を以て引水することとし征
矢野書記専ら設計に任じ首尾克功せり
○校長出張、安藤校長は八月九日北安曇郡
の林業調査の爲縣より出張を命せられ序を
以て白馬登山を試み十五日歸校せられたり
○始業式其他、八月十七日午前九時講堂に
於て始業式舉行、校長の休暇中の出來事及
び時局に對する心得等の訓話あり十時閉式
せるが廿二日までは尙實習を行ふこととし

廿四日より従前の通り授業に取かゝる筈な
り
○登山修學旅行、本校年中行事の一たる登
山は左の日程に依り舉行することとなり十
九日實習後講堂に於て校長より一般注意あ
り終て各教室に於て夫々付添教師より詳細
の注意を與へられたり
一年 御嶽登山 自廿日 頂上及王瀧泊
付添教員 七宮、教諭
二年 駒ヶ岳登山 自廿一日 頂上泊
付添教員 北村、教諭
三年 木曾興業株式會社製紙工場
田立御料林視察
廿二日 日歸り
付添教員 安藤、校長
島内、教諭
變り易き氣候と共に今月の寄宿舎にも極め
て事多く候第一に起りしは例年の脚氣にて
之が再發の爲歸省療養の止むなきに至れる
もの數名を算へ申し候之に次いで其他の病
にて歸省するものも亦有之候
月の十日より連日の實習に疲れ果て、重軍
の痛み攻撃にも頓と氣附かず何時しか夢
路を辿り夜々を明かし居り候十三日の夜は

寄宿舎便り (七月)

舎生懇親會を開き校長先生舎監先生の臨席を願ひ賑やかなる近來にききらるるを催し候

寄宿舎便り (八月)

察の近況申上候 七月二十五日以来實習慰勞休暇の爲め暫らく健兒の條をこめざりし私が寄宿寮は去る十六日を以て再開致され申候

校友消息

齊藤海藏、上田彌太郎君は今回山梨縣恩賜財産管理課に奉職せらる事となり已に任地に向へり

誓程一千日 (六)

高 樋 生

暑い暑いと云ふ中に、いつか野山が紅くなるつてな事は耳にするや既に久し、今年の長野市は、十六年目の暑熱(七月二十五日最高にして九十六度を示すなりと云ふ併し僕には、真に暑いと感じた日の無かりしに早くも此地に秋色に沐す

高原の夕暮に立ちて

詞藻

三年 翠 村



知り合ふに便せしむるもの、これ策の上乗たるを信す... 諸君以て如何となす 序なれば更に一言を附記せん誌上の体裁の如何を問はず 投稿せる者皆其構想執筆等容易の業にあらず 言ふ所諸君の一顧を望む事切なり其記事に依つての討論反駁固より賞す可く布簾と腕押的にては趣味なじ誰れも同じ事劇忙の今日迷惑なりと雖も誌面は一と通り 御通覽あり度きと亦多數の消息通信或は生活状態の紙面に活躍する日の近からんを懸望す

峻烈な晝の日光と蒸すやうな大地のほとりとに囚はれた夏の一日は日の西下するころとなつた 萬象を敲いて驟雨が一過すると 苦熱はすがすがしい気分にするまでに 四圍の凡ては洗ひ浄められ、砂塵も風も治まつて高原一望は實に心行くばかりの新鮮な色彩に充たされた 凡てのものが雨氣を受け生氣を發してゐる 流るとしてもない幾條の小川は溢れて田の畦や 葦原の縁を記してゐる 灰白色の雨霧が隣村から山腹を匂ふやうにして揺いでくる 雨のたへたへにチラリと白く光る落日の空や 明るい山や 暗い森や 緑な林などが見へたり隠れたりする やがて雨霧の帷は動いて薄れ消へ無しといふ順序に引き去られてしまつた 現はれた林や森や山や空の色彩は 余りに露骨であつて雨霧のたへたへから眺めた時心中に豫期したやうな清景ではなかつた 殊に遠い赭黄な崩れ山と近い哀れな墓場が著しく景趣を害してゐる もし畫家がこの景を描寫したならば

この二つのものは削り去つてこの大景を仕上げさせたいやうな氣かした 然しこの二つは何を談つてゐるであらう 草も木も育たぬやうになつた あの前黄な地は生き物の絶滅と山の寂滅とを意味してゐる墓場は人々の生の究極に入る第一關を固めてゐる我らは靈魂の不滅とか何んとかいふ冥々界の消息は知らないが兎に角一代の事業も名譽も權勢もあの第一關に收められ臭骸は一片の烟として虚空に飛散してしまふ 靈魂が不滅とかであるならばあの關門での外衣を奪はれ伴侶を抑留せられて孤獨な彼は無限無底の冥界に彷徨するのであらう 然しかの第一關に抑留も禁束もせられず尙現世に勢力を現はすものが一つある うれは高遠偉大な思想のバアウンドであるあの關門に立つて現世に河等の痕跡をも遺し得ぬ人は所謂無爲に近い人なのである 山でも左様だ永遠に赭黄な山は荒れ狂うばかりで無用の長物に終るであらう 亡國の山は乾度赭黄だらうだ して見ればこの二つのものは捨てがたい大切な賓客である心ある人に見せやうとするならばこの二つは可成鮮かに可成細かに描寫しなくてはならぬまい こんな矛盾が私の心の中に兩立して相闘いた 私はその争ひを抑へて更に空を見上げた 落ち行く日の壯嚴は何物にも比べられない銀白色に空を磨ぎすまし 悠々逼らず又見返り勝な容子 平相國とか云

ふ横着者が入日を宮嶋で呼び戻したとかいふ噂もあるが うれは童話に過ぎないであらう陽は漸次に沈んで 殘光が空際を横に刷毛でなでたやうに臍脂を流した、私は色の中で灰白色が大嫌いだ但何とはなしにそして飽くまで徹底をあらはした大聖の 臨終のやうな、銀白に光る落日の空それが私の一番好きな色なのである。落日は今しも平安に充ち萬象に送られ萬象を見返りながら遽しかつた一日の終焉をつけるのである 人の終焉即ち死も亦がうあつて欲しい美的寂滅と言はうか 樂土にかへると言はうか その孰れでもよいが唯かの落日のやうに——た——落日よた前はもう沈んで行くのか。——寂しい淋しい私をとり残してないか。——寂しい私には又赭い山と哀れな墓場との輪廓がクツキリと見へて、私の頭の中には「草木の霜枯と人々の死、破壊せられた山と建て棄てられた墓標」こんな二對の聯想が起つた ああこの各對は何時迄も比例するであらうか 否々物の一年とは成立しまい 草木が春に醒める時があつても破壊せられた山が青みがかつても 苦の下の人が生きたり墓標に花が咲いたりはせぬして見れば二つのものは永い永い眠を續けるのである——こんなくだらぬ思索を廻らして居ると野良の人々は明日の天候を夕焼雲によつて語り合ひながら通つて行くあゝまう昏れた 野風呂も沸いであらう宵毎

の星をちりばめた蒼空。うれは王者の冠よりも美しい天蓋なのである その真中にまん圓い月を眺めポチャポチャと一日の汗を流す心持と 涼しい葉擦れの風の肌觸りと 家内中打揃ふての夕涼の樂しさを思ひ浮べて私はやをら起つた 煩はしい思索はもう頭の中から掃蕩せられてしまつて私の心は妙にソワソワして居た。暮靄はだん／＼闇に吞まれ夕風は無心に吹いた。(完)

雜報

- 安井書記退職慰勞金申込報告 田中 榮一君
- 金五拾錢宛 鶴藤 正雄君
- 千村 重喜君
- 一之瀬製藥壽君
- 金壹圓宛 田中 榮一君
- 小池 新伍君
- 千村 重喜君
- 原田 義治君
- 一之瀬製藥壽君
- 金七十錢 田中 榮一君
- 小計五圓七十錢
- 累計四拾六圓八拾五錢
- 川崎助手退職慰勞金申込報告 田中 榮一君
- 金五拾錢 田中 榮一君
- 累計拾圓拾錢
- 雜報費領収報告
- 金五拾錢 鶴藤 正雄君
- 金壹圓 高 輝 博君
- 金壹圓 山村 克人君
- 金壹圓五拾錢 千村 重喜君